特集「ユビキタス時代のインターネット / 分散システムの構築・運用技術」の編集にあたって

松 浦 敏 雄†

本特集は、分散システム/インターネット運用技術研究会 (DSM) が中心となって編集したものであり、毎年発行を続けて今回で 4 回目である。

本特集では、タイトルに掲げたユビキタスに関する分野に加えて、新たなインターネット技術やサービス、およびこれらの基礎となる理論、技術や方法論、ならびに分散システムに基づいた応用システムの構築・運用を対象とし、さらには、社会科学的な考察を含めた研究論文も対象とした。また、昨年までの特集と同様に、通常の採録基準よりも有用性を重視し、特に実システムの構築・運用から得られた問題点を示したり、同様のシステムに広く適用可能な構築ポイントを明らかにしたりすることで、その有用性を示した研究論文を積極的に評価することを編集方針とした。

本特集に対して 20 件の論文投稿があり、査読の結果、9 件を採録とした。採録した論文の内訳は、システム構築・運用技術に関するものが 5 件、コンテンツ流通・伝送技術に関するものが 4 件であった。残念ながら、採録率は当初目標とした 60% に及ばなかった。この原因について、十分な分析ができていないわけではないが、不採録になった論文の中には、研究テーマ自身は新規性があり有用性も評価できるものの、論文の構成や書き方の問題で不採録にせざるを得なかったものも見受けられた。これは従来より編集委員会や運営委員会で議論にあがる課題であるものの、査読のプロセスだけでは改善は難しい。現在、研究会の発表において有望な研究を積極的に推薦するプロセスづくりを検討しており、今後の研究会での活動によって、投稿数や採録率が向上していくことを期待している。

本特集では、当初の狙いどおり、分散システムの実際の構築・運用から得られた知見に基づく研究論文をはじめとして、ユビキタスやコンテンツといった過去の特集より広い範囲の運用管理技術に関する研究論文を掲載することができた。これらの技術は、多くの状況で広く適用可能であり、これらの知見を多くの会員が共有できると思われる。

容易な保守運用を可能とする分散システムの構築手

法や既存の分散システムの安定運用技術に対する潜在的な需要は根強いものの、認知度・理解度はまだまだ低く、依然として運用管理者のスキルに依存する傾向が強い。このため、分散システムを設計し、構築・運用方法を確立する研究・開発は最近ますます重要性を増してきており、広く知見を共有することが今後とも継続的に必要である。今回の特集の成果と反省を活かし、来年も同時期に特集を企画したいと考えている。

最後に、本特集発行に際し、多忙な中、編集・査読していただいた編集委員および査読委員の方々、ならびに、本特集にご投稿いただいた方々に心から感謝の意を表します。

「ユビキタス時代のインターネット / 分散システムの構築・運用技術」特集編集委員会

- 委員長
松浦 敏雄 (大阪市立大学)
- 編集委員
相原 玲二 (広島大学)
一井 信吾 (東京大学)
今泉 貴史 (千葉大学)
菊池 豊 (高知工科大学)
串田 高幸 (日本アイ・ビー・エム (株))
齊藤 明紀 (大阪大学)
中川 郁夫 ((株) インテック・ネットコア)
中村 眞 (シャープ (株))
中山 雅哉 (東京大学)
萩原 洋一 (東京農工大学)
箱崎 勝也 (電気通信大)
長谷川明生 (名古屋大学)
樋地 正浩 (日立東北ソフトウェア (株))
牧野 晋 (麗澤大学)
宮地 利雄 (日本電気株式会社)
山井 成良 (岡山大学)
山之上 卓 (九州工業大学)
渡辺 健次 (佐賀大学)

† 大阪市立大学